

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	アレンジ 2	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	後期
対象年次	1 年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1 単位	授業形態	実習		
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	恒枝 賢治		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン、エンジニア	
学習目的					
前期で学んだコンピュータで作曲するための基礎のクオリティを向上させる。ただ作曲できるだけでなく、それを人に聞かせられる状態にしなければならないので、更なる操作知識やインサートエフェクトの仕組みを学ぶ。エフェクトを使用することで、より実践的な音作りが行え、荒削りな音源を聴きやすくしていく。楽曲の表現力を上げるための様々な手法を学び、思いついた音のイメージをDAW上で再現できるようにすることを目的とする。					
到達目標					
本科目はグレード対応科目となっており、1 年次後期はグレード 7 ～ 1 1 に準拠して授業が進行する。 MIDIの基本的な知識に加え、ピッチベンドやビブラート等、コントロールチェンジのパラメータの理解を深め、幅広い表現力をもったサウンドが制作できるスキルをを身につける。初歩的なエフェクトの仕組みや効果的な使用法を習得し、ダイアトニックコードを使用した最小楽器構成での楽曲をできるだけ短時間で効率よく作成することを到達目標とする。					
教育方法等					
授業概要	学生個々が持つ音楽性等に留意しながら、グループレッスン形式で進行する。コンピュータで作曲するためには、どのような知識やテクニックが必要であるかを意識しながら受講する。さらに、どのようなスキルがあれば思い描いたサウンドが具現化できるかを考え、様々な情報を入手することを意識する。授業中の制作だけに留まらず、普段から世の中に出回る楽曲と自分のオリジナル楽曲を比較し考え、常に向上心を持って作曲技能や操作方法を発展させることを目指す。				
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端の音楽等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の 4 分の 3 以上出席しない者は評価しない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	0%			
	小テスト	40%	グレード内容の理解度を確認するために実施する		
	提出物	40%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 （口頭・実技）	0%			
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1 回～1 5 回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1 回	前期の復習		前期の内容を復習し、さらに制作スピードを上げられるように理解を深める。		
2 回	MIDIのCCについて		グレード 7 対応。コントロールチェンジの概念を理解し活用できる。		
3 回	インサートエフェクトについて(1)		グレード 8 対応。EQとコンプの仕組みを理解し、操作方法、効果を理解する。		
4 回	インサートエフェクトについて(2)		グレード 8 対応。各周波数帯の音の分布を学び、EQを効果的に使用する。		
5 回	インサートエフェクトについて(3)		グレード 8 対応。コンプの知識を深め、適切に使用できる。		
6 回	マスターエフェクトについて		グレード 8 対応。マスタートラックにマキシマイザーを適用し、最適な音量でミックスダウンできる。		
7 回	デモ音源作成(1)		グレード 9 対応。講師指定の内容でデモ音源を 1 コーラス作成できる。		
8 回	デモ音源作成(2)		第 7 回の続き。講師指定の内容でデモ音源を 1 コーラス作成できる。		
9 回	デモ音源作成(3)		第 8 回の続き。講師指定の内容でデモ音源を 1 コーラス作成し、 2 mixを提出できる。		
1 0 回	AUXについて		グレード10対応。AUXについて理解し、効率よくReverbを各トラックに適用できる。		
1 1 回	楽曲制作(1)		グレード11対応。Dr, Ba, Pf, Melodyでダイアトニックコードを使用した曲を作ることができる。		
1 2 回	楽曲制作(2)		第11回の続き。Dr, Ba, Pf, Melodyでダイアトニックコードを使用した曲を作ることができる。		
1 3 回	楽曲制作(3)		第12回の続き。Dr, Ba, Pf, Melodyでダイアトニックコードを使用した曲を作ることができる。		
1 4 回	まとめ(1)		後期の内容を復習し、制作スピードを上げることができる。		
1 5 回	まとめ(2)		今年度の内容全体を理解し、今後に役立てることができる。		